

NPO 法人 たすけあいの会ふれあいネットまつど 会報 第 42 号

え

が

お

発行所: 松戸市東平賀 7 番地の 2 電話: 047-346-0866 E-mail: fnm2011@r4.dion.ne.jp

2012 希望の年へ



2011 年 11 月、被災から復興へ歩む NPO 法人ささえ愛山元 (宮城県山元町) を訪ね、中村怜子理事長と震災からの復興と“たすけあい活動”の今後を語り合う、島田喜七代表、奥田義人・佐久間浩子副代表(左より)

支え合い助け合いのある 地域社会を目指して

代表 島田 喜七

新年おめでとうございます。

皆さまは、新しい年をどのように迎えられたでしょうか。

2012 年をどのような年にしていくのかを思う時、

去年今年貫く棒の如きものという高浜虚子の句を思い浮かべます。

2011 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災と福島原発事故は、被災地住民の「困難」とともに、私たちの「社会のありよう」、「暮らしのありよう」、そして私たちの「生き方」について「このままでよいのか」を鋭く問うものでした。

この問いに答えようというメンバーが集まり「チームたすけあい」を結成し、「支援活動を始めました。この活動は、ふれあいネットまつどのこれまでを検証し、これからを展望することになりました。

2012 年、ふれあいネットまつどは、「地域・会員の居場所—コミュニティカフェ」を始めます。「貫く棒」は、「地域の支え合い・助け合い」であり、その輪を広げることだと思います。

ささやかな実践ですが、皆さまのご協力をお願い申し上げます。

新春座談会

運転協力会員

出席者(敬称略) 大條敬郎、奥田義人、齋藤政夫、佐久間浩子、清水哲男、中良夫、中原勇、林義雄、米谷哲三、山本外志子、月井利枝、石原順二(進行)

石原 どうして移動サービスが必要だったのでしょうか。

佐久間

ふれあいネットまつどの移動サービスは始めからありました。ディサービスに行く人が送迎の範囲外から来ていて、朝晩の送迎を会員になっていただき、チケットで送迎する形で。あの当時は松戸市内とか市外とかは関係なくやっていました、たしか8点だと記憶しています。

きつかけ

石原

移動サービスを始めたきつかけをお聞かせ下さい。

中 昨年5月から参加させていただいていますが、松戸に永年住んで松戸

でなにか出来ないだろうかと考えて、ちよっとホームページを探して見ました。

清水

お年寄りや子供と関わりを持ちたかったので、退職後ヘルパー2級を取り福祉車両を使わせていただきサービスをしています。

米谷

2008年の秋、ふれあいネットまつどと係わりあつて入会しました。運転講習会は大変役にたっています、マナーを外さないようにと心がけるようになります。

林

きつかけは、会社を辞めてなんかをやりたいたいというのは一緒なんですけど、いろいろ探して入った移動サービスは気持ちよくやらせていただき

いろんな人と接触が出来て私自身は心の満足を得られる仕事です。

月井

ヘルパーをやりながらの移動サービスは新しい世界に私が入ろうとしている気持ちです。みなさまの足を引



張らないように出来る限りやりたいと思います。

齋藤

運転講習をやっていますよと社協で話があったので講習だけ受けましたその後、いろんな出会いがありました、引き続きいいお手伝いができればいいなと思っています。

大條

きつかけは、母の紹介です、病院の送迎がメインです。

山本

永年勤めていた仕事を辞め、家でボートとしていたのでこんな性格なのでどんな結末になるのか分からずに始めました、でも意外と合ってるかなと最近思っています。

きつかけ

石原

移動サービスでのきつかけなどをお聞かせください。

米谷

きちんと決められたルールはルールとしてなんとか守る。やってみるとそのほうが楽です、決められたことに従うということがそれはやっぱりふだんの癖にしてしまえば、いいんであって、癖というのは自分で変えられると思います。

石原

米谷さん流の対応、参考になります。清水 一時停止を心がけています、左に曲

がるときは自転車に注意しています。

林

一方的にしゃべるような事はしないで、出た話に返すようにしてあげています。

佐久間

15年間いろいろあつて、この間、事故がなかったことにみなさんビックリされます。迎えにくる人も会員で顔も覚えて、自分の身体状況もわかってくださる人が来て下さる、声もかけてくれるなどで、いくら近くても、使う人は増えているという現状になつているなと思います。

中

自然流でやっていましたから、実際にやってみると絶対に安心運転はないという気がします。スピードの制限以内できちんと走る、これほど安全な運転はない。

石原

79条のステッカーを貼った車や福祉車両に乗るときは、すこし気持ちがひきしまります。



エピソード

米谷 約束の時間にいけなかったことがあります。利用者の自宅近くに30分前に着いてしまつて車の中で少し寝てしまった、ふと目が覚めたら時間になっていたことがあります。

林 私、行くのをすっかり忘れて、1時間も過ぎたりして。

石原 私と同じです。

林 事務所でカバーしてくれるので、利用者にはあまり迷惑はかかってないでしょうが。

奥田 以前はもっとありました。今は担当者が確認をしていますので、迎えるの時間を間違ふという失敗はほとんどなくなっています。

中 時間をまちがえないように携帯電話のアラーム機能を利用して、それを実は使っています。

大條

晴れている日でもスモールランプを



点けて運転しています。季節の話、着ている洋服とか話をして車の中の雰囲気良くして目的地に着くように心がけてます。

ふれあい

石原 ふれあいネットまつどにひとこと。

米谷

「こうしてあげたい・ああしてあげたい」という気持ちを十分反映できるようにすべきであろう。たすけあい活動の中で臨機応変に、協力者の立場からすれば、こうしてやれば利用者の利益になるという判断を、協力者の判断に任せてもらえるという部分も必要なんじゃないだろうか。

林

駐車違反の場所で、荷物を運ばせられる、他の人が最近やっているから駐車違反を当たり前のやうにやらせられたり、いろいろケースバイケースが出ています。

奥田

なんでもあり、なんとか手助けしてあげたいという人の気持ちの集まりだから、やれる事はやってあげたいこれが前提です。ただ、一対一の個人の関係ならそれで済むが、会にいろいろの依頼がきます。この要望にどう応えるかコーディネート者の苦心のしどころです。

中原

私は移動サービスが「はりあい」で

す。毎日、明日の予定を確認してから一日がはじまる、だから「いきがい」でもある。

奥田

危機管理の問題はこの場所（北市民センター）で2月25日（土）研修会を開催いたします。個別援助カード（SOSカード）をつくらうと思っています。

中

活動をしながら自分のこともやはり大事にしたい。家族も大事にしたい。そこそこを今年どうしようかと僕もそろそろ決めなければならぬ。

清水

ふれあいネットまつどは非常に前向きというか、事務所の方から夜7時とか8時とかFAXがくる、体制的にこれで大丈夫なのかなという感じが個人的には思う。これ印象です。

米谷

元氣よくこの活動が続けられればいいなと、思っています。

林

今年も健康でいろんな活動ができればと思っています。

齋藤

できる範囲を想像して、無理をしない



いで腹八分で押さえたいです。
大條

要望なんですけど、会報誌「えがお」は、協力者の情報が多いので利用者の情報も載せていただきたい。

中原

歳が歳ですから、引退があってもいいのかと思う反面、体力的にも気力的にもまだまだ大丈夫だと思います。

奥田

運転をできなくなっても、こういう活動ならできますよ、という会員の声を集めて、今の枠に収まらない活動スタイルを作り出したいと思っています。力を入れて2012年度の課題としてやっていきたい。

佐久間

いろいろ感じていたこともあり、そういうことを言われて、なかなかみなさん本当に心の中で思っているんだという事が分かりましたので、こういう機会をまた、持てたらいいなと思います。

石原

本日は、新春座談会にご参加いただき、短い時間でしたが、大変有意義な座談会でした。今年も健康第一で頑張りましょう。

みなさんと貴重なお時間を共有できたことがなによりでした。

ありがとうございました。

ありがとうございました。

ありがとうございました。

ありがとうございました。

ありがとうございました。

ありがとうございました。



2012 ひびき仮設からの 年賀状

ふれあいネットまつどでは、「困ったときはお互いさまのたすけあい活動」の一環として東日本大震災支援活動に取り組んでいます。5月から毎月1回、ひびき工業団地仮設住宅(250戸/宮城県東松島市)で、仮設居住者の閉じこもり防止とコミュニティ形成をお手伝いすることを目的に、オープンカフェ「パラソル喫茶」を開催してきました。同自治会役員でもある三浦慶子さんとパラソルコーディネーターの牧野史子さんに、新年に寄せる手紙を書いていただきました。

三浦 慶子

宮城県東松島市内響
ひびき工業団地仮設住宅

神様はどういう命の振り分けを?

思えばあの3月11日。どういう命の振り分けを神様はしてくれたのでしょうか?今でも私自身、生かされて良かったのかしら?と思えてなりません。幸いにも私の家族は散り散りバラバラに逃げて全員無事でした。私自身は会社食堂2階の屋根の上に、同僚百五十人位と雪の降る中濡れに体を寄せ合い、励ましの言葉を言い合い頑張りました。



12月4日(日)、竹内恵里さんらの「編みあみの会」からのミトン(手袋)贈呈式で三浦慶子さん(右端)

自分は生かされたんだ。前だけをみよう

夜中に津波が納まって来た後二階の水浸しの部屋に戻り次の日夜明けを待ち歩いて避難所を探し、小学校二階の図書館にたどり着きました。その夜は真つ暗な中、赤十字の毛布一枚もらい、のり巻の様にして中に体を入れ眠り着きましたが、お腹は空いているし、体は濡れて着替えがないので、自分の体温で衣類を乾かさなければなりません。でも、よく風を引かなかったと思っています。眠れずに考えた事は「自分は生かされたんだ」ということしか頭になく、これから先はどうなるのだろうか?どうすればいいのだろうかという不安はいっぱいありましたが、どうせすべて失ったのだから後は振り返らず常に前のみ、みて行こうと心に決めて・・・

頑張ろうとは思えず、「生きて行」

一生懸命頑張ろうということは考えず(この歳で頑張れるには限りがある)生きていこうと思っております。振り返ると自分の感謝を素直に出せる様になったのは三か月位前からです。人の話を聞いてもテレビを見ても色のない白黒の絵のような日々でした。でも、今はもちろん全然違います。

支援のみなさんと心の交流を持ち続け

松戸のみなさんを始め、全国のみなさんのご支援を受けているのですから、皆さん方もそれぞれ仕事や生活がおりなのに見ず知らずの私たちの為に遠い所から一生懸命応援して下さい。自分もそれにむくいないと、明るく一歩でも前に進もうと心に決めております。どうぞこれからもさらに、共に心の交流を持ち続け、気張らず、自然体で進んでいきたいなと思っております。

最後に。いつも遠くから御支援下さいましてありがとうございます。紙面をお借りして、ありきたりの言葉ですが、感謝の気持ちを述べさせて頂きます。

牧野 史子

NPO 法人市民福祉団体
全国協議会 常務理事
パラソルコーディネーター



パラソルは、交流と安らぎの場

この「パラソル喫茶」活動は、2011年5月より東松島市内の避難所だった小野公民館前から産声を上げました。

「ふれあいネットまつど」さんには、当初から今まで毎月欠かさず組織をあげて現地に通い続けていただき、被災地の住民のみなさまに大きな支援活動を展開していただきました。まつどさんの思いとパワーは目をみはるものがありました。

関係者のみなさまにこの場をお借りして御礼申し上げます。また「あつたかじゅうたんを贈ろう」プロジェクトの折も即座に対応いただき、多くの方々にご支援をいただいたこと、重ねて感謝いたします。

6月からは、ひびき工業団地仮設住宅(250戸)に場を移し、集会所ではなく住宅の通路にてパラソルを拡張、軽食やお菓子を持参、住民の方々にひとときの交流とやすらぎの場を提供し、時には食事や喫茶とともに美容室やミニコンサート、衣類・陶器市なども併設し多くの方々に親しまれ、8か月間の継続支援によりみなさんとも信頼関係を築くことができました。

パラソルから「ミニ」食堂へ

今東松島市内の仮設住宅(約20か所)では、ほとんど自治会が組織され、

少しづつ「自分達の力でたすけあつてコミュニティを作ろう」と努力が始まっています。先日イベント終了後の役員さん達との懇談の中でも、住民同士の交流が進んできたこと、在宅被災者を含め地域全体でたすけあつていこうと動きはじめていること、役員会ではきたがまだまだ活動は始まったばかりで資金や車がないこと(おひさまクラブより貸与することになりました。)などの状況が聞かれました。そこで、今年からの活動は、住民のみなさんと

「ひびき地域食堂」を適宜開催していく、必要に応じて(器材や資金など)我々は応援させていただくことになりました。さらに今後は活動後に毎回役員さん達と話し合いの場を持つていきます。このような協働の関係になれましたのもみなさんの地道な応援があつてのことと思います。

これからは、雇用も含め、地元の経済復興が第一です。浜の方では民宿も次々再オープンしたようです。これからはぜひ民宿に泊まり「ひびき地域食堂」に出かけ、引き続き応援団としてエールを送り続けていきたいと思っています。今後とも変わらぬ支援をどうぞよろしくお願いいたします。



医療法人社団弥生会

旭神経内科リハビリテーション病院

<http://www.yayoikai.or.jp>

松戸市栗ヶ沢 789-10 TEL047-385-5566

受診・入院等のお問い合わせは相談室までご連絡ください



併設施設:介護老人保健施設/
通所介護/訪問看護/訪問介
護/居宅支援事業所/小金原
地区在宅介護支援センター

介護保険工事件数が 5,000件を超えました。

この経験により、最適な改修プランや用具レンタル
用具販売をトータルでご提案致します。

介護住宅リフォームの専門店
福祉用具レンタル・販売

有)ジェイエム建築企画

本店/〒271-0074 千葉県松戸市緑ヶ丘2-257-2

TEL:047-330-0022 FAX:047-330-0027

柏事務所/〒277-0852 千葉県柏市旭町7-1-10-202

TEL:04-7141-6267 FAX:04-7141-6268

私が育った故郷のお正月

米谷 哲二

2008年入会11月入会



馬 橋

私は一九三九(昭和十四)年五月にこの世に生を受け、五才まで荒川区の尾久で育ちました。一九四三年ころから頻繁に襲ってきた東京への空襲を避けるために両親は馬橋に疎開。一時疎開のつもりが、三月十日の東京大空襲に続く四月二五日の空襲で尾久の町は跡かたもなく燃えつくされ、帰るに帰れなくなってしまうのでそのまま馬橋に住み暮らすことになったわけです。

三月十日未明の東京大空襲の時は母がわざわざ起こしてくれて、大空襲の様子を見せてくれました。頭上には引つ切りなしにアメリカのB29がピカピカの胴体を煌めかせて東京へ向けて飛んでいき、江戸川の堤の向う側が一面の火の海で真っ赤に燃え、時折落とされる照明弾がキラキラと光って落ちていくのが良く見えました。そのときは子ども心に、たんにきれいだなと思ったことが印象として今も残っています。その後、終戦という日本の大きな転換点を経験したはずですが、そのことは私の記憶にはまったくと言っていいほどありません。翌四六年四月には馬橋小学校に入学しましたが、豊かな自然が溢れる馬橋で小学生時代を送る事が出来たのは本当に幸甚なことでした。常磐線の西側は、はるか江戸川の堤まで見渡す限り早稲田が続いていて、馬橋小学校はその中にポツンと建っており、秋の実りのころには、この田に入ってイナゴ取りを学校ぐるみで行い、それを売って教材費の足しにしたと言われました。

常磐線は今でこそ戦後の複々線になっていますが、当時は複線で60年代頃までは蒸気機関車がチョコレート色の客車を引っ張って行き来していました。戦後の私の少年時代は、物も食べ物もおよそ必要なものは何もない文字通り欠乏時代そのものでした。正月だからと言って特別なものを着たり食べたりした記憶はまっ

たくありません。ただ、この時代の馬橋はもつと寒かったし、夜空には恐ろしいほどの今にも降って来そうな満天の星空がありました。

岡田 とみ子

2001年12月入会



牛 久

もういくつ寝るとお正月 いにしえの昔の遊びを思い出し、お正月には、たこあげて、こまを回して、追羽根ついで遊びます。近所の子どもだちが集まり遊んだ事、霞か雲かの中によみがえってきます。ふる里は牛久市奥原町、ちよつと山の中のんびりと自然の中で暮らしていまいした。家は4世代で暮らす昔の家でした。祖母の話を聞くのが楽しかったです。「バーヤは14歳で嫁にきたんだ。石岡の野寺という所で生まれた。馬に乗って、長持を持ってきた。そこで祝宴を上げたのだよ。慶応3年に生まれた。仏様は大好きでな、法話を聞き参拝は京都まで歩いていく。帰って来るまでは40日以上もかかる。ありがたい、ありがたい」が口ぐせでした。この続きは、また今度。

東平賀7番地 編集局

新年あけましておめでとうございます。今もあの日の出来事を思い起こしています。「3・11東日本大震災」は64年間の私の人生で強烈な体験でした。■あの時、支援で訪れた仙台市内の中心街は、スーパやショッピングが閉店したままの状態。移動中の道路は亀裂のあとが痛々しく強烈な印象でした。■それでも、あの時支援に入った介護施設の窓からは、桜の花が満開に咲き、周辺の民家の瓦屋根に張られた青いビニールシートとのバランスが印象的でした。■移動中の車からは、「桜の木になろう」の歌がラジオから流れ、あの歌の学校と被災地の学校が重なり不思議な気持ちでした。■昨年度の言葉は「幸せ」「笑顔」など幸せを表す言葉が多く取り上げられました。次いで平和や安定、印象度では「野田佳彦」「なしこ」などでした。そして京都の清水寺で発表された言葉は「絆」■たすけあいの会ふれあいネットまでも会員相互の絆や笑顔が絶えないように、この会報誌「えがお」で繋げられればいいなと思います。

編集局 赤とんぼ